第18号

編集発行
園田学園女子大学
シニア専修コース
「けやき便り」
編集クラブ

小さな発想から飛躍に向けてのチャレンジ

社会連携推進センター所長　松葉　真

2018 年４月「教育研究活動の充実と発展を推進し、地域社会との連携と協力に取り組むため、社会連携・社会貢献を強力に推進するために」社会連携推進センターを開設いたしました。

この度、センター運営の重責を担わせていただいております所長の松葉真でございます。

本センターでは、社会連携・社会貢献事業として、一つ目は生涯学習ユニットが、受講生に対する学び直しやカルチャー性の富んだ講座の企画立案・運営を担っており、機能としてはＩｎPut にあたります。二つ目は地域連携・研究支援ユニットが、地域連携機構で培ったつながりをより一層紡いでしっかりとしたLINE になるように大学内外に研究情報の発信を担っており、機能としては OutPut にあたり推進しています。

私が食物栄養学科の管理栄養士の資格を有する教員として、常に念頭においていることは、私たちにとって食べることは、生きること。「食べる幸せ」「食べられる幸せ」を探求していくことを第一に考えてきました。このセンターの業務を食物栄養的に例えると、「美味しい食物は良い土からの成果物」であります。生産者は消費者の為に良い成果物が提供できるよう切磋琢磨しています。この循環をスムーズに展開していくことが本学の社会連携・社会貢献に繋がっていきます。

大学や社会で交わりをもち、共に活動することで、互いの利点を活かし欠点を補う能力を養うことが出来、生きる力の活性力を高めていく手だてになります。

最初は、小さな活動からはじまりますが、みなさまと共に一歩ずつ、充実してまいる所存でございますのでよろしくお願いいたします。

本学で充実したアクティブシニアライフをお過ごしください。

目　次

表紙・・・・・・・・・・・・・・・・・・社会連携推進センター所長　松葉　真　P１
先生方からのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・講師の方々　P３
平成 29 年度シニア専修コース卒業式 ・・・・・・・・・「けやき便り」編集クラブ　P９
平成 29 年度卒業生からのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・卒業生有志　P10
平成 30 年度シニア専修コース入学式 ・・・・・・・・・「けやき便り」編集クラブ　P12
平成 30 年度新入生誌上座談会 ・・・・・・・・・・・・「けやき便り」編集クラブ　P13
文学歴史学科新入生歓迎会・・・・・・・・・・・・・・・・ 文歴２年　川田　郁夫　P15
国際文化学科新入生歓迎会 ・・・・・・・・・・・・・・・・国際３年　三木　静子　P16
第３回情報学科同窓会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・研究生　西島登志子　P17
ブラボー！ 文学歴史学科 15 期生 ・・・・・・・・・・・・文歴３年　宮岡憲次郎　P18
学習成果発表会を終えて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・研究生　井上　聖明　P19
シニア専修生がアクティブな人生を語る・・・・・・・「けやき便り」編集クラブ　P20
神戸八社巡りフィールドワーク・・・・・・・・・・・・・ 国際３年　木村　英助　P21
朝鮮通信使がもたらしたもの ・・・・・・・・・・・・・・文歴１年　櫻井　秀也　P22
冗句､ジョーク、Joke・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・研究生　徳田　將之　P23
四神とのめぐりあい ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・文歴３年　高山　純子　P25
毘沙門天の別称多聞天に関する考察 ・・・・・・・・・・・研究生　中村米三郎　P27
シニア専修コース｢クラブ紹介｣・・・・・・・・・・・・「けやき便り」編集クラブ　P31
社会連携推進センターからのお知らせ ・・・・・・・・・・社会連携推進センター　P34
読者の広場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「けやき便り」編集クラブ　P35
投稿依頼、編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「けやき便り」編集クラブ　P35

表紙：校舎写真　「けやき便り」編集クラブ　平田

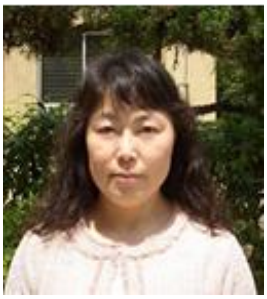
シニア専修コースでご指導を頂く先生方から メッセージ

（敬称は省略、順序はあいうえお順）

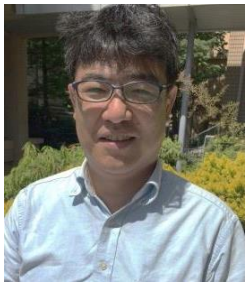
１段目	名前	２段目	写真	３段目	役職名
４段目	担当科目	５段目	メッセージ		

文学歴史学科・国際文化学科

生駒　孝臣	影山　尚之	河合　利光
関西学院大学非常勤講師	本学名誉教授	本学名誉教授
日本史学(3)	日本文学（1）	国際文化研究
授業では日本中世史の中でも受講生の皆さんに馴染みのあるテーマを取り上げて、それらが現在の研究ではどのように理解されているのかを、わかりやすくお伝えします。そして、ここから日本中世史に対する興味や理解をさらに深めていただくことを願っています。	いつもご受講くださいましてありがとうございます。眠い時はご遠慮なく。	本学の姉妹校の南太平洋大学があるフィジー共和国が、米国の世論調査会社のギャラップによると、2011年と2014年の世界幸福度調査で世界一になったそうです。朗らかで寛容で人のつながりを大切にする彼らの生き方に見習って、今年も心豊かに学びましょう。

桐藤　薫	窪田　暁	桑原　一歌
		
本学非常勤講師	奈良県立大学専任講師	本学非常勤講師
東洋史概説 東洋史特論	文化人類学入門（前期）	日本文学（2） 日本古典文学研究
中国は謎に満ちた国ですが、共に学びを進めながら、数多くの「？」が「！」に変わることを願っています。	専修コースでの偶然の出会いを大切にし、「一期一会」を満喫しましょう！	「日本文学（2）」では『源氏物語』第一部の終盤を講読します。また、「日本古典文学研究」では『枕草子』を通して日本の歴史や文化に触れます。 どうぞよろしくお願いします。

文学歴史学科・国際文化学科

谷川　泰教	玉城　毅	樽井　由紀
		
高野山大学名誉教授	奈良県立大学准教授	奈良女子大学古代学 学術センター研究員
仏典を読む	アジア太平洋文化論（前期）	国際総合研究
書店では一般向けの仏教書やブッダに関する本を多く見かけますが、できるならブッダのナマの言葉に近いものを自分の目と心で読んでみたいものです。そのお手伝いができたらと願っています。	世界と自己に対して心を開き、常に新鮮に向き合う、そのような学問を実践したいと考えています。	ハロウィン、ロデオ、アメリカの都市伝説、インターネットカルチャーなど、伝統文化も現代文化も含めて、人種、ジェンダー、移民国家としてのアメリカを、文化に読み取りましょう。オーダーメイドの授業を心がけています。どうぞよろしくお願いします。

中村　直人	中村　真里絵	原 朋志
関西学院大学非常勤講師	国立民族学博物館外来研究員	関西学院大学非常勤講師
戦国大名とその時代 日本史学（２）	文化人類学（後期）	日本史学（１）
日本中世史（寺院史）を専門としています。授業では、鎌倉時代の人々や戦国大名について扱います。歴史小説ではなく歴史学では、彼らとその時代をどのように捉えているのか。私自身考えながら、皆さんに提示することができたら幸甚です。	今年で２年目になります。昨年は、受講生の皆さまの熱心な姿勢から大いに刺激を受けました。講義では、文化人類学の視点から、観光や世界遺産、モノづくりといった現在の人びとの営みについて考えていきたいと思います。	日本古代史、主に飛鳥・奈良時代を専門としています。 本講義では、古代国家の成立過程について概観していきます。「興味深く、分かりやすく」を目標に進めていきますので、よろしくお願いします。

文学歴史学科・国際文化学科

本城　二郎	マーク・ウォーターハウス	松山　利夫
関西大学非常勤講師 関西チェコ／スロバキア協会理事	本学非常勤講師	平安女学院大学特任教授 国立民族学博物館名誉教授
ヨーロッパ地域文化Ⅰ、Ⅱ	Revolutions in Communication	多文化共生論 日本の風土と文化 国際観光開発論
Ｐ８に記載しています。	Let’s enjoy English and American movies from the classics to modern masterpieces. When we understand innovations in film and cinematography we gain a deeper appreciation for the movie and the movie making process.	仲間をふやしましょう！ 知的な雰囲気を楽しみましょう。

水田　かや乃	宮城　洋一郎	山口　悟
本学教授 近松研究所研究員	種智院大学特任教授	大阪学院大学教授
日本芸能史	仏教の歴史と思想（後期）	国際地域文化 西洋史概論
日本の芸能の中から、実際に鑑賞できるジャンルを選び、その歴史や内容・特色を学んでから、舞台に触れる科目です。前期は「たからづか能」と「蒲団と達磨」（ピッコロシアター）に出かけます。人間に生きる力を与える芸能の奥深さを、一緒に探究し、楽しみましょう。	仏教は、日本社会に深く浸透し、わたくしたちの日常生活に多大な影響を与えています。その源となったのは、日本仏教の各宗派の祖師たちの活躍によるところがあります。この講義では、これらの祖師たちを中心に、生涯と思想・実践および関係寺院なども含めて、分かり易く述べていきます。	歴史を楽しみましょう。

文学歴史学科・国際文化学科

吉本　康子	吉村　稠	
日本学術振興会特別研究員	本学名誉教授	
アジア太平洋文化論（後期）	日本文学(3) 日本近現代文学研究Ⅰ 日本近現代文学研究Ⅱ	
授業では東南アジア、主にベトナムの事例を取り上げながら、どのような人々が、どこで、どのように暮らしているのかについて紹介し、異なる文化的背景を持つ人々の共存について、日本の事例と比較しながら考えたいと思います。	人生を切り取る「文学」 『そのだシニ専』で「文学」に触れ、眉根にしわを寄せ、涙腺をゆるめ、そしてうなずく刻を楽しんで下さい。	

情報学科

上椙　英之	小田桐　良一	垣東　弘一
本学非常勤講師	本学教授	本学教授
課題研究（A）	応用情報、情報特論（前期） プログラミング（後期）	基礎情報（前期） ＩＣＴリーダー技法（後期）
授業では画像処理を学んでもらい、最終的には持参してもらった写真に処理を施し、アルバムにすることを目標としています。コンピュータとデジカメの普及によって画像処理は決してプロのための技術ではなくなっています。この機会に是非習得していただきたいと思います。	応用情報では、PowerPointを用いた口頭発表を前提としたスライド作成や、大規模なデータを効率よく管理するデータベースの構築や検索の仕組みといった分野の実習を担当します。情報特論では、プログラミングの導入的な内容も扱います。	Ｐ８に記載しています。

情報学科

清水　五男	難波　宏司	堀田　博史
本学非常勤講師	本学准教授	本学教授
プログラミング（前期） 基礎情報（後期）	課題研究（B）	インターネット活用（後期）
皆さんは、情報に関することを学ばれる機会は少なかったと思いますが、本学でパソコンが実用的に使えるように学習に励んでください。学習の上で大事なのは、基礎・基本をしっかりと身につけることです。情報教育センターを十分に活用し、情報化社会への対応力を育んでください。	今、特に関心を持っているのが、技術史です。新たな発見が多々あります。例えば、産業革命の意義の再発見や、人類はどのようにして鉄を手に入れたのかなど、その時の状況に自分を持っていって考えると人智のすごさに感動します。「温故知新」を実感しました。	学び続けることで，新たな興味が芽生えます。私も皆さんと一緒に学び続けたいと思います。よろしくお願いいたします。

山口　美緒里	山本　恒（ひさし）	堀越　直穂
本学非常勤講師	本学名誉教授	情報教育センターＴＡ
基礎演習Ⅰ、基礎演習Ⅱ インターネット活用 応用情報	応用演習Ⅰ、応用演習Ⅱ	情報特論 インターネット活用（前期） 基礎情報（前期）
MS Officeやインターネットなど、パソコンでできる便利なツール活用を担当いたします。今や、パソコンとインターネットさえできれば、何でもできる時代です。情報を使う力は子供から大人まで必須になりつつあります。一緒に生涯学び続けましょう！	学びは人生を豊かにします。特に自ら考えながら試行錯誤を繰り返して得た知見は、いろんな場面で応用できる生きたものになります。また、せっかく共に学んでいるのですから、共に高まろうとする学び方も大切です。一緒に授業を作り上げていきましょう。	授業や自習中、パソコン操作に困ったときはいつでも質問してください。分からないことは一緒に考えたいと思います。 一年間よろしくお願い致します。

情報学科

植田　みどり	岡田　かおり	前田　真美
情報教育センターＴＡ	情報教育センターＴＡ	情報教育センターＴＡ
基礎演習Ⅰ 応用演習Ⅰ 課題研究(B)	応用情報（前期） 応用演習Ⅰ	課題研究（A）
授業や自習中にパソコンのことで分からないことがありましたら気軽に質問してください。一緒に考え解決するお手伝いができればと思います。よろしくお願いします。	皆さんの学習がより楽しめるよう、サポートしていきたいと思っております。パソコンで困ったことがありましたら、気軽に声をかけてください。よろしくお願いします。	ご質問等があれば、お気軽に声をかけてください。 お役に立てるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いします。

【本城　二郎先生メッセージ】

私は縁あって、チェコに７年、スロバキアに２年留学し、現在、中東欧とケルト圏を中心に欧州言語文化研究を続けています。皆様は、外国旅行や外国滞在の経験者も多く、外国への関心が高いと聞き及んでいます。本授業では、世界遺産や略史や簡単な日常会話表現、さらには芸術文化にも触れることにより、欧州文化の全貌解明を目指します。共に頑張りましょう！

【垣東　弘一先生メッセージ】

ICT（情報通信技術）やIoT（モノのインターネット）が私たちの生活に深く浸透し、社会は日々情報によって大きく変化しています。この情報社会において私たちは、情報の正しい知識と技術を習得して積極的に活用することにより、快適な生活を過ごしたいものです。授業では難しい内容に出くわすことがあるかと思いますが、最後まで一緒に頑張っていきましょう！

平成 29 年度シニア専修コース　卒業式

３月９日（金）の午後１時から、平成 29 年度シニア専修コースの卒業式が AV ホール（３号館図書館２階）で執り行われ、川島学長から卒業証書が卒業生一人一人に授与されました。

卒業生は、文学歴史学科…17 名、国際文化学科…18 名、情報学科…12 名でした。

卒業式に際して祝辞を述べられる川島学長

祝辞を述べられる木村総合生涯学習センター所長

卒業証書の授与

けやきコーラス部の歌によるお祝い

卒業式会場の様子

（写真と取材：「けやき便り」編集クラブ　平田・井上）

平成 29 年度　卒業生からのメッセージ

春は学びの季節

文学歴史学科卒業生　春名　智子

冬枯れの空に陽光が戻り、木々の枝が芽吹く頃になると何か新しいことを始めたくなる。毎年の事だ。春は学びの季節である。３年前の春園田学園のシニア専修コースに入学し、この春から研究生になった。仕事をリタイアしてから、母を自宅介護した期間を除いて、これまでも色んなことをやってきた。

シニア専修コースで文学歴史学科を専攻し、これまでとは違った楽しさや興味を感じた。特に日本史では中高生の時に習った歴史では感じられなかった歴史の持つダイナミズムを知り、改めて日本という国や日本人とはと考える機会にもなった。1 年を通して講義日程や講師の先生が決まり、継続した講義を受けられるというのは、大学ならではの利点だろう。さらに深く受講したいと思う講義もある。これまで以上に、読書の傾向や興味の対象が拡がっていった。

英国の宇宙物理学者ホーキング博士が亡くなった。21 歳で ALS を発症し、亡くなる 76 歳まで研究を続け、新しい真理を発信し続けた博士のような天才に比べるべくもないが、どのような環境になっても、死ぬまで学ぶ姿勢から勇気が貰える。『明日死ぬと思って今を生きよ、永遠に生きると思って学べ』はインド独立の父ガンジーの言葉だっただろうか。死ぬまで学び続けようと考えるから、今、現在が輝いてくる。

昨年、英国の医学雑誌「ランセット」に認知症予防の助けとなる生活習慣について報告された論文が掲載された。認知症に関する過去の論文を検証したもので、現時点で最も根拠があるといえるものだという。その中で、大人になっての学びの大切さが挙げられている。本学のような学校形式の学びの場は、これまでと異なる人達との出会いや交流など、認知症予防には大いに効果がありそうだ。

この春、研究生になった。これからの１年、どんな新しいことに出会えるだろうかと、少しワクワクしている。春は学びの季節である。

「為サネバ成ラヌ」

情報学科卒業生　岡田　眞人

若宮正子さん。御年 83 歳。去年プログラミング言語 Swift を学び、iPhone 用アプリ「hinadan」を完成させた。そんな実績が評価され、Apple が開催する開発者イベント WWDC に「スペシャルゲスト」として招待された。彼女は「最高齢の開発者」として紹介され、Apple のティム・クック CEO とも面会を果たした。

そんな若宮さんも元々はパソコンの使い方を知らず、定年退職後に買ったパソコンをネットに接続するのに３ヶ月もかかったそうだ。

勉強家で努力家の若宮さんと比べるのはおこがましいが、わたしもまた 70 歳でシニア専修コースの「情報学科」に入学して、初めてパソコンの基礎を習った。

３年間学んだことを概観すると、Word（文書作成）、Excel（表計算）、Movie Maker（動画編集）、Access（データベース管理）、PowerPoint（ゼミで研究成果を発表）、Photoshop Elements（写真編集）、プログラミング（小学生も 2020 年から必修）など、学習は多岐にわたる。

しかし、もう若くはない。わたしの脳の経年劣化は年相応なのだ。論より証拠、学んだこと

の「歩留り率」は３割程度と自覚している。駄目押しするかのように「物覚えが悪い」「物忘れが激しい」「人の話を聞かない」「口だけ達者」と無慈悲な外野の声はすこぶる手厳しい。このように自他共に認めるネガティブな材料を掻き集め、学習の成果が上がらぬ理由を並べ立て、できないことが当たり前と思い込んでいた。そういうときに冒頭の若宮さんのご活躍を小耳にはさんだのである。

できない理由を指折り数えて自己憐憫に陥るより、できる事が一つでもあればその部分を掘り下げる努力が必要ではなかろうか。気づかせてくれたのは若宮さんである。ということで、本年４月、わたしは「放送大学」に進学することを決めた。同大学にも「情報学」の履修科目があり、シニア専修コースで学んだパソコンのイロハをさらに深化させることができる。これから「できない」は禁句にしようと思う。

学問に王道なし、人生に正解なし

国際文化学科卒業生　田中　達史

『There is no correct answer on life（人生に正解はない）』と人生を諦めていた自分が、若い頃から憧れていた女子大に入学出来ることになり、歳をとることも悪くないなと思って３年間を過ごしてきました。結果として、期待以上に楽しい学生生活を送ることができました。

入学時の 25 名から 18 名までクラスの人数は減りましたが、クラスメイトの人達がとても良い方ばかりで、特に女性達のパワーに引き摺られて、学内でも学外でも、国際文化論は勿論のこと、政治・経済・芸術・食文化や家庭に於ける夫婦の在り方までを論じることが出来たことは老い先短い人生に何がしかのヒントを与えていただけたと感謝しています。

講義をして下さる先生方からは新しい知識や考え方などをご教授いただき、学外授業では他国の文化や日本の伝統芸能を学び、時には食事会で現代の学生気質などを教えていただくなど、たくさんの教えを得ることができました。勿論、その知識のほとんどは頭脳には入り切っていませんが。

学内の施設では安くて美味しい学食は勿論のこと、生協での書籍やチケットの購入に割引があったり、学生の特権を大いに利用させていただきました。

そんな中、想定外だったのは大学の図書館です。蔵書が多く、簡単に利用することができ、さらに新書の購入の希望ができるので、非常に重宝しました。

また、クラス仲間と定期的な食事会やお茶会などを重ねる中で、私の趣味である美術鑑賞と食事会とを合わせた「美術鑑賞とグルメの会」を発足させ、毎月関西の美術館を訪問してランチとともに楽しむことが出来たことは、楽しい思い出となっています。

校門付近（写真上）／**温室**（写真下）
撮影　「けやき便り」編集クラブ　河田

平成 30 年度シニア専修コース　入学式

４月 12 日の 14 時から平成 30 年度のシニア専修コースの入学式が川島学長はじめご来賓の方々のご臨席をいただき、AV ホール（３号館２階）で執り行なわれ、学長から新入生へ入学許可証が授与されました。新入生は、文学歴史学科…28 名、国際文化学科…13 名、情報学科…22 名の 63 名です。

△お祝いの言葉を述べられる川島学長(左)と松葉社会連携推進センター所長（右）

▽川島学長から入学許可証を授与される新入生代表

文学歴史学科

国際文化学科

情報学科

▽交流会でのクラブ同好会の紹介

けやきコーラス部

けやきカラオケクラブ

けやき IT を楽しむ会

けやき遊歩クラブ

けやきテニスクラブ

けやき朗読倶楽部

軽音楽同好会

「けやき便り」編集クラブ

(写真と取材:「けやき便り」編集クラブ　平田・井上・宮本)

平成 30（2018）年度　新入生誌上座談会

これから３年間 ともに楽しく学びましょう！

～シニア専修コースにようこそ～

「けやき便り」編集クラブでは、新入生の方(５名)の入学に向けての動機、感想などを、アンケート形式で集約し、「誌上座談会」としてまとめました。

≪参加者≫　福島　久雄(文歴)　美間　総一郎（国際）　田中　洋子(情報)
水津　富江(文歴)　湯浅　いづみ（国際）

＜入学した動機を教えてください＞

水津　仕事を退職して時間が出来たので以前から興味のあった歴史の勉強を始めようと入学しました。

福島　数年前に佐賀県にある吉野ヶ里遺跡を見学に行きました。壕や建物の大きさ、棺の数、遺跡の規模の大きさに圧倒され、もう一度歴史を勉強したいと思い入学しました。

美間　仕事を辞めて時間が出来たこと、出張で行ったいろんな国の文化や暮らしについてもっと深く知りたくなったこと、が動機です。

湯浅　学生時代が理系コースだったので退職したら社会科を勉強したいと思っていました。ネットで検索して年間を通して学べるというところと週 2 日通学くらいがいいかなということで。

田中　いろいろな趣味に遊びましたが、ことごとく咲かずに散った花。そこで、ひょっとして私の隠れた才能は今までパスしてきた苦手な分野の中にあるのでは？と（笑)。一番苦手な情報学科に無謀な挑戦をしました。

＜やりたいこと、挑戦されたいことについて＞

美間　まずは、3 年間の修学を無事に終えること、でしょうか。あとは、クラスの仲間、クラブの仲間と長くお付き合いできればいいなと思います。

湯浅　もともと旅行が好きなので、目的を持った旅や、今までだったら行かない所とかも行ってみたいです。世界遺産についても勉強しようと思っています。

田中　校歌が歌えるようになりたいです。エッセイや詩や歌の CD も作ってみたいし、個性的なエンディングノートを作成したいです。

福島　青森県にある三内丸山遺跡など日本各地の遺跡をめぐりたいと考えています。

水津　今学んでいる飛鳥・奈良・平安時代等の名所旧跡にあらためて訪れたい。以前の知識のなかった時よりも受講した事で親しみが増し、新しい発見があるのではと期待しています。

＜学園生活を始められての印象について＞

田中　新緑に輝くけやき通りにキラキラ輝く乙女たち。若さとパワーあふれる学園に感動しました。でも教室では知らない人ばかり、こんな環境に身を置くのは何年振りでしょう。少し固まっていました。

福島　図書館を利用できるのがありがたいです。また生協のカードも出来上がり食堂や売店のレジがスムーズで便利です。

水津　先輩達が大変元気で頑張られているのを見て改めて現在のシニアパワーを認識しました。

湯浅　入学後、2 週間くらいでまだ慣れていないこともあるけど、今までの生活リズムとは変

わって、目新しく、新鮮な気持ちで過ごしています。学食のメニューも多いし、図書館も充実しているし、自称“女子大生”気分でしょうか。

美間　他のシニア大学に比べて、クラスの人数が少ないことや、周辺に食堂、喫茶室のような集まれる場所があること、などにより、クラスのメンバーとすぐに顔見知りになれたのは、良かったです。

＜授業やクラブ活動などについて＞

福島　約40年ぶりの講義はとても新鮮です。興味のあるクラブがいくつかあるので検討しているところです。

水津　文学Ⅰの影山先生については、座学だけではなく現地に行っての講義もやって頂けるとの事で、大変楽しみにしています。

美間　いまの授業は、どれも非常に楽しいです。まだ寝てません(笑)。クラブは、早速、テニス部に入りました。思ったよりクラブの種類が少ないこと、クラブの歴史も浅いことなどが、少し物足りないです。

田中　当然のことながら、授業にはついて行けません。おいてきぼりのまま無情にも終業のチャイム。作業途中の未完成モニターを前に、このままでは帰れないとあせっています。

湯浅　最初は90分授業が何10年かぶりなのでできるか不安もありましたけれど、いざ始まってみると時間が過ぎるのが早いくらいに感じています。なるほどと思う事も多く、すごく楽しいです。クラブは朗読と遊歩に入りましたが、声を出して読むのは難しいです。

＜先輩たちや社会連携推進センターなどへの要望について＞

湯浅　入学式後に交流会があり、先輩の方々の話を聞くことができて参考になりました。必修科目はもちろんですが、他の選択科目も選ぼうかと考えていましたので。交流会は続けてほしいです。

福島　授業のレジメを配るタイミングが遅いと混み合うので始業前に入口に置いていただければありがたいです。

田中　今はまだ緊張して上手に質問出来ません。これからどんどん質問や要望が出てくると思いますのでよろしくお願いいたします。

水津　授業のカリキュラムの中で、現地での講義があればより興味がわいてありがたいです。

美間　シニア専修コースのメンバーの多くは、このような学園に入ってよかったと言っているので、このシニア専修コースの存在をもっと宣伝すべきです。それと、クラブの種類や規模の、更なる充実を希望します。

＜その他感想、ご意見などございましたら＞

湯浅　友人や前の職場の人たちに、授業が面白いし、先輩方が意欲的に取り組んでいる話を食事会などの機会によく話をして、勉強を勧めています。復習も兼ねて、授業内容を少ししゃべっています。

福島　授業に関するＱ＆Ａコーナーを設けていただければありがたいです。授業前に質問内容を書いたメモを置いて、先生にはそれを見て答えていただく。(１対１ではなく全員に聞いてもらうものです)

田中　無謀な挑戦に友人は「歳に逆らって生きているのね」と少し冷やかです。でも教室の皆さんはとても親切で助けてくださいます。あきらめないで３月には一つでもいいから花を咲かせたい、学園生活を楽しみたいと思います。

編集クラブ

入学早々、新入生のクラス委員の方々にご無理をお願いして、誌上座談会に参加していただきました。座談会からは、新しい学びの世界へ飛び込んだ皆さまの、新鮮で前向きな意気込みが伝わってきます。ありがとうございました。

（まとめ：「けやき便り」編集部　櫻井）

２０１８年度　文学歴史学科 新入生歓迎会

文学歴史学科２年
川田　郁夫

▲写真:参加者一同　みなさんヨロシク

園田学園女子大学のキャンパスに爽やかな風薫る５月 21 日、文学歴史学科の 2018 年度新入生歓迎会を開催いたしました。当日は、日本文学２年担当の桑原一歌先生、センターの松葉所長、大野課長を来賓に迎え、新入生 17 名（全員参加でなかったのは残念）、２年生 12 名、３年生６名、研究生７名、総勢 45 名の参加をいただきました。1 ヶ月程前から何度も打合せをしてなんとか開催にこぎ着けました。

15 時より２年生クラス委員の開会の挨拶で幕開け。最初に来賓の方々から祝辞を頂きました。桑原先生からは、「本学の図書館には、源氏物語全巻が、蔵書（玉上文庫）としてあり、貴重なものなので、皆さんも一度見てください」と、また松葉所長及び大野課長からは、「社会連携、人との関わりを大事に」との祝辞を頂きました。松葉所長、大野課長におかれましては国際文化学科との掛け持ち参加お疲れ様でございました。

その後２年生の発声でソフトドリンクでの乾杯、ビュッフェスタイルでの懇談へと入って行きました。今回は４人テーブルとし懇談の時間を多めに取りましたので、各テーブルとも話が弾んだのではないかと思います。

和やかな雰囲気になったところで、山根軽音楽部員のギター演奏のもと、みんなで一生懸命に練習した歓迎の歌「翼をください」の合唱を２年生全員で披露させていただきました。

引き続きメインイベントである新入生の自己紹介に移りました。新たな仲間作りや違った分野の学びのために再入学された方や、ケアハウスのオーナーさんなど、多彩な経歴の持ち主が多数入学されています。園田シニアコースの多様性を再認識いたしました。今年も個性豊かで向学心旺盛な学生が集まっておられるという印象で、新入生の友達の輪がどんどん広がっていく予感がいたしました。

▲2 年生全員で歓迎の合唱「翼をください」!！

禁酒時間が解けてほろ酔いになったところで参加者全員と新入生一同の集合写真を撮り、歓迎会は成功裏に（自画自賛？）幕を閉じました。

新入生同士の交流がまだ少ない中、今回の会が交流のきっかけに、また先輩との良い出会いの場になったのなら主催いたしました２年生一同うれしく思います。会に参加いただいた来賓の先生方、先輩諸兄、皆様に感謝いたします。

ありがとうございました。

国際文化学科 新入生歓迎会

国際文化学科３年
三木　静子

新緑に包まれ初夏を思わせる５月21日の午後３時から、国際文化学科の新入生歓迎会がチャティーにて開かれました。新入生13名のうち12名、２年生、３年生、研究生、そして後半は社会連携推進センター松葉所長、大野課長も参加してくださり総数35名でした。

３年生の河田さんの司会で始まり、前半の最初に３年生の松原さんからニュージーランド紀行の報告がありました。旅行の目的やその国の歴史の説明、人口より多い羊の数や潮を吹き上げるクジラなどをスライドで紹介されました。

つぎにアルプス登山や南イタリアや北海道の紀行報告、出雲風土記を訪ねる旅や神戸八社巡りの校外学習など、３年生の昨年度のクラスの取り組みが紹介されました。

全員そろったところで記念写真撮影。続く２部の最初に、松葉所長より「しっかり食べて運動をする。社会に役立つ活動をする。余裕をもって行動する」など、心身の健康や社会参加についてお話しいただきました。大野課長からは「学園の行事にも参加し情報交換を。本学の学生とも交流を進めて」と励ましていただきました。

続いて新入生からの自己紹介があり、研究生の真鍋さんの乾杯で、いよいよ会食が始まりました。この時皆さんの表情が一気に和らぎました。食事が進むにつれて会話も弾んできたところで、席を自由に移動しての交流となり、さらに盛り上がりました。研究生、３年生、２年生の代表から励ましの言葉や、学園生活で得た豊富な経験をアドバイスしていただきました。

今年の新入生は入学式の時点でクラブに参加希望される方や、クラス委員に自ら立候補される方、放課後チャティーでの談話など積極的に学園生活を楽しんでおられる様子でした。

また仕事を退職された後の生活を模索し、園田シニアという新たな世界へ一歩踏み出された方、そのシニア専修コースの情報を伝え共に入学された方のお話には感動しました。

終盤にこの会の幹事７名の紹介があり、代表して２年生クラス委員の有年さんより言葉をいただき、まだまだ話し足りないと惜しみながらの閉会となりました。

ユーモアを交えながら司会していただいた河田さんをはじめ、会を盛り上げ協力していただいた皆さん、どうもありがとうございました。

松原さんの報告を聞く参加者

第３回 情報学科同窓会

研究生
西島 登志子

2018 年 1 月 31 日、寒さの中にも明るく晴れた空の下、続々と情報学科の OB がいつもの「かごの屋」に集まりました。総勢 33 名。座る席が決まればすぐに表に出て記念撮影です。皆さんニコニコと元気な笑顔を咲かせてくださいました。集合写真に遅れてきた人が一人おられましたが、ちゃんと写真に写っていらっしゃいます。そこは情報学科のテクニックです。全員集合写真になりました。

１回目は 12 名。２回目は 17 名。３回目は 33 名の参加です。(３回目の今回は３月に卒業の７期生も参加してくださいました)

１期生　５名
２期生　１名
３期生　５名
４期生　２名
５期生　５名
６期生　８名
７期生　７名

この会の発案者、４期の野間さんが２ヶ月間のクルーズ旅行のためお留守で残念でしたが、野間さんの分も一緒に、情報学科同窓会が楽しい会になりますよう、この会がいつまでも続きますように。そして皆様のご健康とご多幸もお祈りして乾杯しました。「カンパ～イ！」

「１期から順番に自己紹介を」との司会者の言葉に箸を置き、出席者名簿を参考に名前を覚えたくて、話を聴きたくて、耳を澄ましました。

情報の教室で顔を知っていても名前を知らなかった方や、名前は知っていてもどんな方かわからなかった方も、話しぶりでなんとなくわかってきます。

なかには「こんな会を年に３回持ちたい」とおっしゃる方や「次の会はハイキングというのはどうですか」との声もあがり、どんどん盛り上がっていきました。実際に情報学科で苦労したお話も出て、同じ悩みも共有した仲間たちの３時間はアッという間に過ぎてしまいました。

次回も是非参加したいとの声で都合の良い曜日（今回と同じ水曜日）を全員で決め来年の再会を誓ってお開きとなりました。

その後、全員集合の写真をお送りしましたところ、１期の方から思いの籠ったお手紙をいただきました。学年が違っても同じことを学んだ仲間の輪が広がっていくことの嬉しさを実感しました。来春の再会が楽しみです。皆さんお元気でいてください。

（写真　井上・宮本）

ブラボー！
文学歴史学科 15 期生

文学歴史学科３年　宮岡　憲次郎

新しい世界への期待を胸に、園田学園女子大学シニア専修コースの扉を開け、２年が経ちました。

その文学歴史学科 15 期生という出会いの中で、私たちは一人、二人と仲間になり、今ではクラス全員が和気藹々と学園生活を楽しんでいます。

入学後､私たちは 15 期生クラスのネーミングを募集し検討の結果、「いち（１）ご（５）会」と名づけました｡「いちご会」は毎月１回開かれ、互いの交流を深める場になっています。昨年はその内の半分（６回）を「かごの屋」でランチを食べ（勿論、アルコールも）歓談し友好を温めました。

（2016 年 10 月 20 日）ヨロシク！懇親会ランチ　「若駒」

先日、３年生になって初めての「いちご会」を行いました。果たしてこの２年間クラスのみんなはどうだったのだろうか？と思い、以下の３点について簡単に回答をしてもらいました。

１）２年間を振り返って

ほとんど全員に近い方が、すばらしい仲間と出会い、多くの友人が出来、楽しく充実した時間が過ごせたと答えられました。勿論学業が本分ですから､「興味のあるなしに関わらず、授業を聞くことで知識を深めることが出来た」とか「まさに大学で学んでいる感があり、受講日が楽しみだった」という感想、他には「仕事と学業を両立することが出来た」｢学生生活は在職～退職～年金暮らしとスムーズに移行できた」などもありました。

２）３年になっての抱負を尋ねると

「仲間との親睦をますます深めて、研究生としても本校に携わりたい」｢学ぶ要領がつかめてきたので､聴くだけでなく深めていきたい」｢興味のある事が年齢とともに増えてきた。しっかり学んでよく遊びたい」｢これからも健康第一､気楽に学んでいきたい」｢最後の学年なので、できるだけいろんなことに参加し、思い出づくりをしたい」｢授業もクラブも共に楽しんで、充実した１年を送りたい」などの思いが綴られていました。

３）最後に学校への要望を聞いたのですが

圧倒的に多かったのが、講座数（カリキュラム）の増加、講座の質・量の充実でした。そして学校からの行事などの連絡・連絡方法の検討でした。それから Wi・Fi の設置もありました。これらの要望は今後のためにも学校側に伝えようと思っています。

入学して２年間はほんとうにあっという間でした。人生の出会いとは実に不可思議なものです。この運命の出会いを大切に、これからも「いちご会」の面々と、よく遊びよく学びながら輝いて学生生活を送りたいと思います。

（2018 年 4 月 13 日）３年進級祝いランチ　「かごの屋」

国際総合研究

学習成果発表会を終えて

研究生　　井上　聖明

平成 29 年度国際総合研究･国際文化研究生による「研究学習成果発表会」を２月２日に実施致しましたので、その顛末などを少し述べさせていただきます。

発表項目は以下の通りですが、それぞれの詳しい内容につきましては、当日発表されなかったものと併せて、一冊の文集にまとめましたので、何かの機会に目を通していただければ幸いかと思っています。

１．神戸元町フィールドワークについて。
　「神戸関帝廟～中華街～華僑博物館」
２．世界の住まいを学ぶ。
　「ＪＩＣＡ講師講演と、バス研修旅行」
３．海外紀行報告。
　「中国・深圳の客家史跡と最先端都市」
４．個人研究報告。
　「宮古島民謡、アヤグが伝えるもの」
　「鉄と暮らし、鉄にまつわる神」

文章にするとそれぞれが 10～15 ページあるものを、1 人あたり 15 分、3 人のグループで 20 分以内にする必要があるので、何を削りどこをアピールすればよいかに悩み、表現したい内容をどれだけ入れるか、皆さんに興味を持ってもらえるだろうかなど直前まで苦心しました。

内心では「先輩達も大変な習慣をつくってくれたものだ」と恨んでもみたり、「いやいや、よい勉強をさせていただいている」と感謝したりの慌しい日々でした。

個人的な反省点として、発表会準備に取り掛かるのが遅れたために、お互いに意見を出し合って修正を加えるなどの手間を掛ける時間がとれなくなり「とりあえず間に合わせる」に主眼を置かざるを得なくなってしまったことです。

さらにもうひとつ、私が思っていた以上に、この発表会について皆さんが関心を持っていただいている事に全く気付かず、開催のお知らせやその内容、場所、時間設定の準備をおろそかにしたことで、結局のところ自分達の最終授業時間に開催する結果となってしまい、大変ご迷惑をかけたことが悔やまれます。

その様な状態でありながらも当日は多くの方が忙しい時間をさいて参加していただきましてとても有り難くお礼の言葉も有りませんでした。

もともとこの発表会は各自の研究成果やフィールドワークの資料を配って行っていたものが、次第にパワーポイントを用いて多数の方に見ていただく様に変化してきたとのことですので、私自身もデータ整理の仕方などを先輩方に教えて頂きながら取り組んで来ました。

そんななか「今回は動画で発表をする」と、わざわざパソコン教室に行かれた方や、情報学科を卒業して参加され、その技術を活かしてスライドを作られた方もありましたので、また新たな試みにチャレンジする機会となった事は、大きな進歩であったと思いますし、回を重ねるごとに少しずつですが内容も変化している事を実感しています。

最後に教訓として「しっかりした企画を早くたてる・細やかなコミュニケーションをかさねる・資料は熱いうちにまとめる」といったところですが、かたちはどうあれ、参加して頂いた皆さん方のご協力と応援で、一区切りつけることが出来た事に深く感謝しています。

園田学園女子大学公開講座　「人間を考える ～楽しく生きる力 ～」

シニア専修生が アクティブな人生を語る

2018 年 1 月 20 日（土）、本学シニア専修コース研究生の今西伸子さんと金森扶美子さんが公開講座「人間を考える」で講師を務めました。当講座は 1982 年にスタートした歴史ある看板講座で、本学シニア専修生が講師を務めるのは、2014 年以降、今年で４度目となりました。

◆「お客さまを美しく着飾って、感動する」

今西　伸子さん

子供の頃、ミス〇〇であった女性たち５人が住んでいた明石の「美人通り」と呼ばれた場所近くで暮らし、その綺麗な女性たちに魅かれて美容師を目指そうと思われたそうだ。

15年ほど美容師をされた後、美容学校の先生を依頼された。メイク、ヘアー、着付けやネイルなど美容に関わる五つの資格を取得し、12 年間連続で生徒の欧州研修に付き添いながらカットスクールで勉強された。

美容学校の教え子たちが、在学中に習得した技術を生かせる場所を求めて、自ら１年間ホテルの結婚式場でお手伝いの仕事をされた。

その時に、ひ孫の結婚式に出席するという 90 歳位の腰が曲がり、点滴の針を刺したままのお婆さんへ着付けのお手伝いができたことに、とても感動されたそうです。

今西さん自作の日本髪図

◆「若い頃、やりたかったことに挑戦！」

金森 扶美子さん

幼い頃は引っ込み思案で人前で話ができなかったが、結婚を機に、夫の転勤で引っ越すたびに、少しずつ話をするようになられた。

50代半ばでご主人を亡くされ、独身の頃に諦めたことをやろうと決意。

始めに大学卒の資格を得るため、京都造形大学通信部陶芸科に入り、５年で卒業。

その後、演劇の夢を求めて、関西のシニア劇団に入り、芝居をしているうちに、段々自己解放もでき、度胸もついてきたとのこと。

2010 年には、ニューヨーク・オフオフ・ブロードウェイの劇場にて、ネイティブ英語で公演する機会があり、人生最高の達成感を得る貴重な体験をされたそうだ。

他にもいろいろなことに挑戦され、なかでも朗読は 20 年近くも続けられています。

「その道一筋というのも良いが、道が２本、３本あって、これもあれもという生き方があっても良い」と言う言葉もあり、「ケセラセラ」の開き直り精神が「楽しく生きる力」になっているのかもと話されました。

最後に、高村光太郎の『智恵子抄』を朗読されて講義は終わりました。

両名の講師から話をお聞きして、「楽しく生きる力」とは、何事にも失敗を恐れず、自分から積極的に働きかけて取り組むことから湧いてくるものだと改めて教えられた気がしました。

（取材と写真：編集クラブ　宮本・井上・平田）

国際文化学科 16 期生（現３年）は、発表会やフィールドワークなどを年間を通して自主的に実施してきた。一昨年度は学内で『生田神社と裔神（えいしん）八社』について 11 月にパワーポイントを用いて解説し、12 月に神戸八社巡りの第１回フィールドワークとして、一宮神社～四宮神社を実施した。昨年度は残された、五宮神社～八宮神社の第２回フィールドワークを 12 月に実施した。

神戸八社だけでなく、周辺にある花隈城跡などの史跡やルミナリエの見学も組み入れて行った。文化人類学入門を担当された金セッピョル先生をはじめ学年をこえて多くの方にも参加いただいた。

生田神社と裔神八社

生田神社を囲むように点在する神戸の一宮から八宮までの神社を裔神八社といい、七宮神社以外の祭神は、天照大神と素戔嗚尊の誓約で生まれた五男神と三女神が祀られている。江戸時代にこの八社の巡拝が盛んとなり、数字の順に巡ると厄除になるとされている。

境内の生田の森は源平合戦の時、平家が東の砦とし戦いが繰り広げられた場所である。また、約 500 年の年輪をもつ「楠の木の神木」は、昭和 20 年６月の神戸大空襲で焼けてしまった。

外国人居留地と各国の領事館

三宮神社近くの外国人居留地の一角を案内した。126 区画ある町名もユニークで「京町」「江戸町」「浪花町」、初代県知事・伊藤博文に由来する「伊藤町」もある。1868 年９月 10 日に最初の競売があり、イギリスをはじめ各国の領事館が居留地に置かれた。

神戸事件と三宮神社

三宮神社境内には、明治政府初の外交問題となった「神戸事件発生地の碑」がある。

1868（慶応４）年１月 11 日、備前藩の隊列が三宮神社に差しかかった時、フランス人水兵２人が行列を横切ろうとした。これは、日本側から見ると非常に無礼な行為で、第三砲兵隊長・滝善三郎正信が強引に隊列を横切る水兵に軽傷を負わせた。それから水兵と藩兵の銃撃戦に発展した。居留地に居たイギリス公使は激怒し、烈強諸国は居留地を占拠し、日本船舶が拿捕された。

東久世通禧と伊藤博文の交渉の後、２月２日、滝を切腹、日置を謹慎させることで決着した。

地域・歴史を学ぶフィールドワーク

昨年度は、山の中腹にある五宮神社から出発し、七宮神社まで神戸の街を下るコースで、それぞれの神社を見学した。

その途中で、湊川神社にも立ち寄った。湊川神社には、湊川の戦いで足利尊氏と戦って戦死した楠木正成と一族が祀られている。楠木正成を祀る神社は、徳川慶勝が京都に創建する案を朝廷に請願して一旦は認められていた。しかし、神戸事件の収拾を図った功労者である東久世道禧が神戸創建を請願、朝廷はすぐに承認、最終的に神戸に決定したという。

福原京遺跡、高田屋嘉平関連遺跡、神戸出身の作家横溝正史の生家跡などにも立ち寄るなど、２回のフィールドワークは、地域の遺跡や由緒、歴史などについて学ぶものだった。

フィールドワーク後は懇親会、それに続いて、世界最大のクリスマスツリーを見学し、ルミナリエ会場まで足を伸ばして解散した。

高田屋嘉平本店の地で（2017.12.13）

『よもやま話』を聞いて話をしましょう

河田かつのぶさん

『朝鮮通信使がもたらしたもの』

文学歴史学科１年　櫻井　秀也

1 月 19 日（金）14:40～17:00 に、チャティーで表題の会合が開催されました。開催にあたっての呼びかけは、「お茶など飲みながらお話を聞いて、そしてワイワイと話をして楽しみませんか」というものでした。

国際文化学科２年生（当時）の河田かつのぶさんは、もともと「朝鮮通信使」の研究をライフワークの一つとして取り組み、楽しんでおられる方です。昨年秋に、「朝鮮通信使」のユネスコ記憶遺産への登録が決まったこともあり、タイムリーな企画となりました。

集まってくださった皆さんは 46 名の大人数。講義を終えられたばかりの松山先生や、生涯学習センターの大野課長も参加してくださり、途中、コーヒーやケーキ、４人グループのテーブル毎のおしゃべりタイムを挿みながら、なごやかで賑やかな会合となりました。

ご存知のように、「朝鮮通信使」は、鎖国と言われた江戸時代の約 200 年の間に、12 回にわたり朝鮮から日本に派遣された外交使節団です。一行は、通信使 400～500 人に対馬からの随行者など加えると数千人という大きな規模だったそうで、朝鮮から対馬を経て、水路と陸路を用いて江戸までを、何か月もかけて往復しました。朝鮮王朝からの通信使の派遣と日本側の歓待は、両国にとっての一大イベントで、その様子は多くの資料に残されています。

河田さんは、第 11 回の徳川家重への将軍就任祝いの際の朝鮮通信使を例に挙げて、途中の一向の様子や、鞆の浦や、淀川両岸の見物人による圧倒的な歓迎の様子を、多くのスライドとともに解説してくださいました。また、日本の民衆と通信使とのやりとりを、河田さんふうに大阪弁で「通訳」し、庶民感覚にあふれたユーモアたっぷりの会話で再現して会場の皆さんの笑いを誘いました。

それにしても、江戸という時代に、大規模な朝鮮使節が何度も渡来し、日本も各地で歓待し、その間両国はおおむね良好な関係にあったということに、あらためて新鮮な驚きを感じました。

参加した皆さんからは「朝鮮通信使のことをあまり知りませんでした」「とても良かったです」という声をたくさんいただき、最後に松山先生からは、「大変良いお話を聞かせていただいてありがとうございます」との感想をいただきました。

河田さん、大変お疲れ様でした、ありがとうございました。

「冗句、ジョーク、JOKE」

研究生　徳田　將之

断捨離を進めているのだが、一昨年から始めた親父バンドの楽器類が増えて何をしているのか分からない。それでも「大物」の本は２本あった書棚を半分にしたのでそれなりの達成感に浸っていたが、家人に言わすと「まだ多い」と手厳しい。「それならお前の服とバッグと靴はどうなんだ」とは家庭内平和を心がけている者としては言わない。

先日､仕分けしていた本のなかで 1988 年が初版の大前研一著「遊び心」というエッセイに目が止まり思わず読み耽ってしまった。

30 年前といえば団塊の世代である私が駆け出しの中間管理職の頃だが、コテコテ大阪人の上司から「キミなあ、管理職ゆうたら会社を離れても仕事の事を考えとかなあかんのやで！」と言われ､「はあ。そんなもんですか……」と間の抜けた返事をしたが、仕事が趣味とも思えるその人とはタイプが全く違う私は「冗談ではない…… それならオンとオフはどう切り替えるのだ」と思ったが、もちろん口にはしていない。「面従腹背」はサラリーマンの大事な処世術のひとつである。

その頃、世の中はバブル最盛期でテレビでは栄養ドリンク「リゲイン」の CM ソングが「24 時間戦えますか？」のキャッチコピーと共に流れていた。この歌は「勇気のしるし」といい軍歌の題名にでも良さそうな大時代的なものだが、あの時代、バーやクラブのカラオケでもよく聴き、今でもアップテンポでノリの良いこの曲のリズムは私の耳に強く残っている。

その歌詞を自分の仕事に関係する都市名の替え歌にしてカラオケで唄ったこともあったが、オリジナルの歌詞（黒田秀樹　作詞）の一部を引用してみる。

黄色と黒は勇気のしるし
24 時間戦えますか
リゲイン　リゲイン　ぼくらのリゲイン
アタッシュケースに勇気のしるし
はるか世界で戦えますか
ビジネスマン、ビジネスマン、
ジャパニーズ　ビジネスマーン

有給休暇に希望をのせて
北京・モスクワ・パリ・ニューヨーク
リゲイン　リゲイン　ぼくらのリゲイン
年収アップに希望をのせて
カイロ・ロンドン・イスタンブール
ビジネスマン、ビジネスマン、
ジャパニーズ　ビジネスマーン

当たり前の話だが､夜は寝ているから 24 時間戦えるはずもないが、その上司に叱責されている夢で目が覚めたこともあったのでその頃は仕事が中心の毎日だったことは間違いない。

話が少し本題から外れたので戻すと、大前氏の著作はビジネス書が中心でサラリーマン時代にはかなり多く読んだものだが、それらは定年後の私には必要のない本として殆ど処分した。しかし､「遊び心」は自由人の自分には参考になりそうなので残しておいた一冊なのだが、その中に「冗句」という一節がある。

『外国に行くとパーティーなどで、ちょっとした冗句を言わないと座が白けることがある。そんなとき私はおきまりのやつを TPO に応じて使い分ける』ということだが、なるほど、確かに外国人は会話の中やスピーチの冒頭で巧みにジョークを盛り込み､場を盛り上げるのがうまい。

「ジャパニーズ　ビジネスマーン」の一人であった私もビジネスパートナーのドイツ人との付き合いでは会食などでジョークを盛り込んだものだが、その中で映画「タイタニック」が封切られた頃だから1999年頃と記憶するが、これを題材とした有名？なジョークがあった。救命ボートに全員が乗り切れず、女性や子供を助けるために何人かは犠牲になる必要があり、船長が乗客を集め状況を説明しボートを譲るボランティア？を募る架空の話。

はじめに英国人を呼び「あなたはジェントルマンだ」と言い、次に米国人には「あなたはヒーローになれる」、そしてドイツ人には「これはルールなのだ」と言うと皆納得して従った。最後に日本人に「皆さんそうしていますよ」と言うと周りを見渡しながら慌てて飛び込んだというジョークだが、これをドイツ人との会食でしたが受けが良くなかった。下手な英語だったのか、ドイツ人には思い当たることがあるので苦笑したのかはよく分からない。

最も上等なジョークは自分を笑い者にする事らしいから、それはそれで良かったと思うがTPOを考えて「ドイツ人」を省略すれば受けたのかと、反省？したものだった。

なんとも、日本人としては余り有難くないイメージを持たれたものだという気もするが、我々日本人には周りに合わせておけば……という傾向は強いと思うし、横並びで動いていれば無難だという習性のようなものは確かに自分にもある。自己顕示に走らない奥ゆかしさは古来日本人の持つ美徳だし、海外から日本に帰って来ると、以心伝心で気持ちが通じホッとするのは誰しも同じではなかろうか。

しかし、急速に進むグローバル化の時代には外国人に対して的確な自己主張や自己表現をしていくことが我々団塊の世代の子や孫の時代には益々重要になっていることは間違いない……、とまた本題から外れてしまったが、最後にJOKEをひとつ。

元勤務先では海外との交信がレターやテレックスの時代からWindows 95が登場した頃に、ノートパソコンが各個人に配布され電子メール（当時の表現）で簡単に交信ができ、お堅いイメージ の強いドイツ人の中にも親しくなると仕事の内容以外にJOKEを付け足してくる洒落気の多い人もいて笑わせてもらったものだが、そのメールのコピーが何枚か残っていたので、そのうちのひとつを英語で恐縮だがご紹介したい。

At the cocktail party, one woman said to another, “Are’n you wearing your wedding ring on the wrong finger?”
The other replied, “Yes, I am. I married the wrong man.”

思わず家人の指を見ると指輪をしてないので「結婚指輪してなかったっけ？」と聞いたら、「今頃、なにゆうてんの」と言われ、はて？と考えていたら「ずいぶん昔、あなたが自分はもうしないと言うので、私のと合わせたプラチナリングに作り直して、お出かけの時にしてるのよ」と言いながら見せてくれた。

ああ、そんなことがあったな、と思い出したが「どの指にするのか？」と聞くのはやめた。

参考文献：
（1）「遊び心」
大前　研一（小学館）
（2）「24時間戦いました」
布施　克彦（ちくま新書）

四神とのめぐりあい

文学歴史学科３年　　高山　純子

１．出会い

どうして四神に興味を持ったのだろうか。若い頃から古代史には関心があったが、おそらく 30 年以上前に読んだコミックのせいだろう。それは四神が人間の姿をしていて不思議な力を持ち、活躍するというストーリーであった。四神とは青龍・白虎・朱雀・玄武のことである。五行思想に従って東西南北を象徴し、四方それぞれの方角を守護して悪霊を退けたり、陰陽の気を順調にめぐらすという役割を担っている。また、天井に描かれた星宿図とは密接な関係があり、色にもかかわりがあって、それぞれ青・白・赤・黒を表わしているそうだ。

1972 年高松塚古墳の壁画が発見され、1983 年からの調査でキトラ古墳にも壁画があることがわかった。高松塚・キトラ両古墳には、つくられた年代、被葬者は誰かなどさまざまな問題があるが、いまだに確定されていない。中国のような墓誌がなく、決定的な材料に欠けるからだそうだ。年代については、両古墳ともに７世紀末ないし８世紀はじめ、とするのが大勢であるが、新しい説もあるという。

その後、ＮＨＫのドキュメンタリー番組でキトラ古墳の壁画のはぎ取り作業が放映されたのを見て実物を見たいと思うようになった。

2006 年、まず白虎が公開された。当時は申込制などではない、現地へ行って並ぶだけだ。場所は飛鳥資料館で、待ち時間は 90 分だったと記憶している。入館してからも壁画の展示場所まで更に並んだ。そうして実際に見ることができたのは、1 分もなかったと思う。本当に白虎の部分だけで“こんなものなのか”という印象であった。

翌 2007 年、今度は玄武（蛇と亀）が公開された。前年同様に並び、見学した。この時は、帰りに高松塚古墳に立ち寄っている。高松塚古墳は全体に白い布でおおわれていた。カビが生えた壁画の保存のための作業中だと思われた。

2007 年のパンフレットの一部分

２．再会

それっきり壁画のことなど忘れていたのだが、2016 年４月園田学園女子大学シニア専修コース文学歴史学科に入学し、７月に学外研修で飛鳥を訪れた。約 10 年ぶりの飛鳥であったが９月に「四神の館」が開館して壁画が公開されることを知り、まだ見ていない青龍と朱雀を見たいと思った。

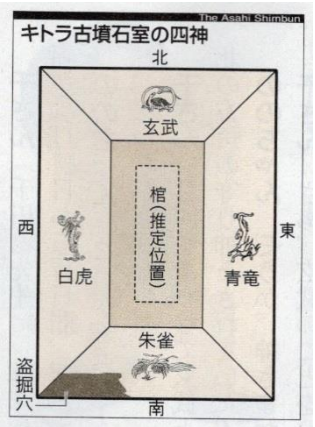
そして９月末から天文図・朱雀・白虎等の公開が始まった。今度は申込制である。任意の日時を第三希望まで選択できる。早速申し込んで、当日友人達と出かけた。飛鳥駅に到着して、周辺を散策してから高松塚古墳で昼食にした。高松塚古墳はすっかり変わっていた。復元されて小高い墳丘となり、辺りは公園のようになって 10 年という歳月の経過を感じさせた。

昼食後、文武天皇陵を経てキトラ古墳へ向かう。「四神の館」には１階と２階に展示室があり、１階の展示室は自由に見ることができる。予約時間にはまだ早かったが受付へ行くと、キャンセルがあったのですぐに見学できるという。ラッキー！“第〇〇班”と書かれた名札を首からぶら下げて、２階の展示室前に並んだ。１回に入室できるのは 10 人ぐらいだろうか。入室前に警備員から注意事項等の説明があり、展示室内にも警備員がいる。

室内には壁画の他に、出土した副葬品なども展示されていた。10 年前に見たのは白虎(西壁)の部分だけだったが、修復され、継ぎ合わされた壁画は大きなものとなっていた。初めて見る天文図に朱線で描かれた４つの大円は、はっきりとしていてよくわかった。表されている中国の星座は、現状で 74 座確認でき、本格的な中国式星図としては、現存する世界最古の例だそうだ。白虎は以前に見ているが、右側を向いているのは図像としては珍しいという。ちなみに高松塚古墳の白虎は、左側を向いている。南壁の朱雀も初めて見るもので、鮮やかな朱色で描かれている。

南壁には盗掘の際に大きな穴が開けられたが、わずかに位置が外れたため、図像の損壊は免れたということだ。高松塚古墳の朱雀は、盗掘の際に漆喰が破壊されたため図像は残っていない。他に十二支の戌と推測される図像も描かれていたが、はっきり確認できなかった。見学時間は 10 分ぐらい。タイマーがかけてあるのだろう、ベルが鳴った。

退室後、1 階の展示室を見てから建物のそばにある復元されたキトラ古墳を見に行った。少し登ったところにあって、高松塚古墳と比べるとひとまわり小さいそうだが、位置としてはもう少し高い場所にあるように思った。



四神の配置図

その後、玄武(北壁)も公開されたのだが以前に見ているので、改めて申し込んで見ることはしなかった。玄武（蛇と亀)については､蛇が亀に何重に巻きついているか、亀・蛇が口を開けているかどうか等いろいろな種類があるそうだ。高松塚・キトラの場合は、蛇は一重だけ巻きつき、キトラでは亀蛇ともに口を閉じている。高松塚の場合はこの部分が破損していてわからないのだが、多分同様であっただろうということだ。

３．完結

2017 年５月、東壁(青龍・十二支 寅)の公開だ。いよいよこれで最後になる。再度申し込みをして、今度は壺阪山駅から歩いた。キトラ古墳へ行くにはこちらの方が近くて、15 分ほどで到着した。やはりキャンセルがあり、今回も予約時間より早く見学することができた。

青龍は残念ながら後世に侵入した泥土に覆われ､図像の主要な部分ははっきりせず､赤い舌、くちばしの先端、両前脚の先がわずかに確認できるのみであった。高松塚古墳の青龍は口から先や前脚は、キトラ古墳とほぼ同じ描き方がなされているので、キトラ古墳東壁の泥の下にも高松塚古墳のような青龍が描かれていたと考えていいそうだ。

キトラ古墳の東壁には､十二支のうち寅･卯･辰の三体が描かれていたと推測されるが現在確認できるのは寅のみだ。頭は寅で体は人間の姿をしていて、襟をＶ字状に合わせた裾の長い着物を着ている｡襟の赤さがやたらと目に残った。

帰りは飛鳥駅へと向かった。おりしもイチゴの季節で、イチゴ狩りの看板が目に入る。私達も駅近くの物産館であすかルビーの入ったソフトクリームを食べた。つぶしたイチゴをそのままクリームに混ぜてあるようでおいしかった。

キトラ古墳は、盗掘口が２個の凝灰岩で封印され、埋め戻されて永遠の眠りについた。私の四神への思いも甘いソフトクリームとともに溶けていったのである。

復元されたキトラ古墳

(参考文献:文化庁/奈良文化財研究所パンフレット・
山本忠尚:高松塚・キトラ古墳の謎)

毘沙門天の別称多聞天に関する考察

－社会科学における一つの疑問－

研究生　中村　米三郎

１．はじめに

私は、中学時代から歴史は好きな学科であったが、歴史上の人物が「領土」のために戦う武将の中にあって、毘沙門天を信仰し「毘」の旗を掲げて「義」のために戦った上杉謙信が好きである。

ところで、毘沙門天は七福神の一尊であり、また多聞天も四天王の一尊で、この二尊とも非常に著名な仏尊であるが、多聞天は毘沙門天の別称といわれる。そのことに私は強い関心を持った。そこで、なぜ多聞天が毘沙門天の別称といわれるのかを検証してみたいと思った。

２．天部の仏像

仏像は、仏教の信仰・造物の対象となっている。広い意味での「仏」は、その由来や性格に応じて、「如来部」「菩薩部」「明王部」「天部」に分けるのが一般的である。

本論では、毘沙門天と多聞天を対象にしているが、二尊とも天部に属している仏尊であるため、少し天部について論じる。

天部の仏像は、仏教流布以前の古代インドの神話やバラモン教の神々が仏教に取り込まれ、護法善神となったものである。また、数尊を集めて護法や守護神的な威力を高めたものとして、四天王・十二天・八部衆・十二神将・二十八部衆などが挙げられる。

３．毘沙門天と多聞天

(1) 毘沙門天

天部に属する神々は、古代インドのバラモン教やヒンドゥー教から仏教に取り入れられた場合が多く、毘沙門天も、もとはクベーラという名の財宝を司る神様であった。サンスクリット語（古代から中世にかけて、インド亜大陸や東南アジアにおいて用いられていた言語。宗教的な面から見ると、ヒンドゥー教、仏教等の礼拝言語であり、その権威は現在も大きい）で「ヴァイシュラヴァナ」と呼ばれ、それを漢字で音読みしたものが毘沙門天である。これは「すべてのことを聞き漏らさない」という意味で多聞天という名の由来ともなった。

日本では四天王の一尊として造像安置する場合は「多聞天」、独像尊として造像安置する場合は「毘沙門天」と呼ぶのが通例である。

「毘沙門天」は、邪鬼の上に立つ勇ましい武人という印象的な姿であるが、これは「仏」の世界を守るという役割を担っているためである。

庶民における毘沙門信仰の発祥は、平安時代の鞍馬寺である。鞍馬は、北陸若狭と山陰丹波を京都と結ぶ交通の要衝でもあり、古くから市が栄えた。

兜跋毘沙門天像
京都・東寺

自然と鞍馬寺の毘沙門天は本来の神格である財福の神という面が強まり、また９世紀頃からは正月の追儺（大晦日の年中行事であり、平安時代の初期頃から行われている鬼払いの儀式）において、疫病を祓う役どころが、かつての方相氏（鬼を払う役目を負った役人）から毘沙門天と竜天のコンビに変わっていったことから無病息災の神という一面が加わった。こうして福の神としての毘沙門天は中世を通じて恵比寿・大黒天にならぶ人気を誇るようになる。

室町時代末期には、日本独自の信仰として七福神の一尊とされ、江戸時代以降は特に勝負事にご利益ありとして崇められている。

(2) 多聞天

今からおよそ 2500 年前、釈迦によって仏教が開かれた頃、世界の中心にはスメール（須弥山）という高い山がそびえており、その天空の頂上にはトラーヤストゥリンシャ（三十三天）という神々の世界があると考えられていた。その三

十三天の中央には、古代インドの神話で語られる神々の帝王インドラ（帝釈天）の城（善見城）があるといわれた。

インドラを帝王とするデーヴァ神群は、世界を支配するが、世は必ずしも安泰だったわけではない。阿修羅などのすなわち「非天」と呼ばれる反逆の神々、水界を支配するナーガ(龍)の王たち、ヤクシャ（夜叉）・ラークシャサ（羅刹）などと呼ばれる鬼神たちが活動し、疾病・飢餓・戦乱などが起こり、死と涙で世界を覆うこともしばしばあった。

この世界に新たな秩序をもたらしたのが、釈迦であった。釈迦は、天界の神々や悪霊たちに教えを説いた。憎しみと争いの境涯に苦しんでいた悪霊たちは、釈迦に救われて以後、仏法を守ることを誓い、護法の善神に転じることになった。

神々の座であるスメールもその周辺の海洋も地上も、すべて釈迦のもとにある仏国土となった。この仏国土の安寧を守るためにスメールの四方に、神々の軍団がおかれた。

・持国天（国を支える者）を司令官とする東方軍
・広目天（いろいろな目をもつ者）を司令官とする西方軍
・増長天(恵みを増大させる者)を司令官とする南方軍
・多聞天(あまねく聞く者)を司令官とする北方軍

そして、以上の各軍団の司令官たちを四天王とよぶ。

インドでは、甲冑などを身に着けていない貴人の姿で表わされているが、中国で武将の姿に変わり、日本に伝わった。中国の甲冑を着た武将の姿で表わされ、忿怒相をして邪鬼を踏みつけているのが通例である。

多聞天像
東大寺戒壇院

また、多聞天は、鬼門の方角である北を守ることから、四天王のリーダーともいわれる。

４．「毘沙門天」の別称「多聞天」の考察

「毘沙門天」の別称が、なぜ「多聞天」といわれるのか、それを考察してみたい。

(1) 役目からの考察

「毘沙門天」は、古代インドでは「クベーラ」と呼ばれ、財宝を司る神で、「ヴァイシュラヴァナ」とも呼ばれた。これは、「あまねく聞く」という意味の言葉であるが、何を「あまねく聞く」というのであろうか。

私は、「財宝を司る」神であることから、人々の言葉を「あまねく聞いて」それに基づき財宝を配ったのではないか。それだからこそ、「七福神」の一尊に取り入れられたのではないか、と考える。

「多聞天」は、「ヴァイシュラヴァナ」とも呼ばれ、「多くを聞き知っている者」になるが、「多聞天」の場合はスメールを守る軍人であるため、広目天とともに、スメールに害をなす者たちの情報を多く聞き、広く見て調べる事も役目であったのではないだろうか。いわば、穿った見方をすれば、多聞天と広目天は情報担当の役目も兼任していたのではないか、と考える。

従って、その役目から、「毘沙門天」と「多聞天」とは、同尊とは考えにくい。

(2) 毘沙門天像からの考察

田辺勝美著 1999『毘沙門天像の誕生　シルクロードの東西文化交流』吉川弘文館（P4～6）で、毘沙門天および毘沙門天像の起源と誕生に関して、

――インドと仏教はむろん、考察の対象としなければならないが、それ以上に、中央アジアのイラン系民族の宗教、文化、さらに遠く地中海世界のギリシャ、ローマ美術までも視野に入れないと解決することはできないのである。～略～つまり、毘沙門天という天部および毘沙門天像はインドに生まれる可能性はほとんどなく、パキスタン北部のガンダーラという特殊な地域（インド人からみれば辺境ということになろう）だからこそ誕生したといえるのである。その特殊な事情とは、この地が南東はインド、北および北西は中央アジア、西は

イランからメソポタミア、南はインド洋から紅海（エリュートゥラー海）を通してギリシャ、ローマの地中海世界に結ばれていた「文明の十字路」にあったということである――と述べている。

また、わが国では毘沙門天像のほかに「兜跋（とばつ）毘沙門天」といわれる武将姿の天王像が数多く知られている。この「兜跋毘沙門天像」といわれている尊像は図像学的な特色を持っているので、特別に扱う必要がある。少なくともわが国の「兜跋毘沙門天」の源流が中国にあったことは間違いがない。

毘沙門天の像が、「毘沙門天像」「兜跋毘沙門天像」の２種類存在すること、また尊像の誕生の経緯からして、果たしてスメールの軍司令官であり、四天王のリーダーであった「多聞天」が「毘沙門天」の別称といえるであろうか。

(3) フィールドワークからの考察

①朝護孫子寺

582 年に聖徳太子が排仏派の物部守屋に対して崇仏派の蘇我馬子とともに戦ったとき戦勝を祈願すると、「毘沙門天」が信貴山に出現して必勝の秘法を授け勝利したといわれる。

本堂の「毘沙門天像」
左より善膩師童子像、
毘沙門天王像、吉祥天像

私は、その信貴山でフィールドワークを行った。

鳥居の「多聞天」の扁額

信貴山朝護孫子寺の本尊は「毘沙門天像」である。私は、朝護孫子寺の境内で別称とされる「多聞天」を探した。「多聞天」は、朝護孫子寺の入口近くにあった鳥居の扁額の文字として、また経蔵堂の中の一切経を納める経蔵を守護する四天王の一尊として、確認することができた。

経蔵堂内の多聞天像

本尊として「毘沙門天像」があり、また経蔵を守護する尊像として「多聞天像」があった。同じ寺にあって役割が異なる「毘沙門天」と「多聞天」とが、同一の尊像と考えることは不自然ではないだろうか。

②鞍馬寺

毘沙門天が、信仰の中心になっている鞍馬寺のフィールドワークを行った。

鞍馬寺の中心の本殿は金堂である。金堂の本尊は「尊天」とされ、中央に毘沙門天、左右に護法魔王尊、千手観世音が安置され、これらの三身を一体として「尊天」と称している。

今の鞍馬寺は、鞍馬弘教の総本山で神智学の影響を受けた鞍馬寺貫主信楽香雲が昭和 22 年 10 月に天台宗より独立して立てた天台宗系の新宗教教団（認可は昭和 27 年）であるので、現在の鞍馬寺の毘沙門天の別称を多聞天とする議論には無理があると思う。

境内を歩いた。毘沙門天像は、金堂と霊宝館にあったが、多聞天は見当たらなかった。ただ、平安時代の鞍馬寺は、庶民における毘沙門天信仰の発祥地と考えられるが、その当時から多聞天が毘沙門天の別称と考えられていたのであろうか。

(4) 田辺勝美氏の疑問

田辺氏（元古代オリエント博物館研究部長、元金沢大学文学部教授）は、前出『毘沙門天像の誕生　シルクロードの東西文化交流』で「別称多聞天説への疑問」を２つの観点から指摘されておられるが、その論点を紹介する。

①「多聞」の意味から

毘沙門天と多聞天の相違は、サンスクリット語の「ヴァイシュラヴァナ」の音訳と意訳の差異である。この「ヴァイシュラヴァナ」という言葉は、「広く」、「多く」とか「あまねく」を意味する「ヴァイ」と、「聞く」という意味の動詞語根「シュリー」から派生した名詞の「シュラヴァ」に接尾語の「ナ」を付けた言葉が結合してできたものであるから、原意は「あまねく（多く、広く）聞いた人あるいは聞かれた人」

であるから、「ヴァイシュラヴァナ」を漢訳した「多聞天」という名称は、言語学的には正しい。どのような点で、「広く多く聞かれた、あるいは聞いた」のかが説明されていない。古の中国やわが国の僧侶は、『阿沙縛抄』巻第百三十六に「玄贊要集にいう。毘沙門はこれを多聞という。常に仏陀(釈迦)とともに在って道場を守護せり。常に仏陀のことを聞いていたから多聞なのである」と説明されていることから解釈したのであろう。つまり、毘沙門天はいつも釈迦の側にいて、その説法を多く聴聞していたから、説法を多く聞いたという意味で「多聞天」といわれるようになった、という解釈が現在まで通説化してきた、ということである。

少なくとも、釈迦の伝記を始めから終わりまで読んでいけば、多聞天にせよ、毘沙門天にせよ釈迦の説法を聴いたことは一度もなかったことがわかる。毘沙門天が釈迦と直接接触したのは「出家踰城」と「四天王捧鉢」のエピソードでしかない。そして、いずれの機会でも毘沙門天は釈迦の説法を聴いてはいないのである。このように、毘沙門天と釈迦の疎遠な関係はガンダーラの仏伝浮彫りにおいても同様である。

また、多聞天も釈迦の説法を一度たりとも聴講していないことになる。むしろ、釈迦の説法を誰よりも多く聴聞する機会があったのは、ガンダーラの仏伝浮彫り全体からみれば、釈迦のボディー・ガード的な役割を演じた執金剛神であり、多聞天の「多聞」は、釈迦の説法とは関係がないことがわかる。

②言語学から

「ヴァイシュラヴァナ(毘沙門天)」の意味は、言語学的に見れば「多くあまねく光を放つ者」という意味にもなり、「光」には「豊穣、富」の観念が含まれているであろうから、「格別多くの富を授与する者」という意味にもなろう。いわば、毘沙門天の原義は決して「釈迦の説法を多く聴聞した」ということではなく、「格別多くの富や名声を授ける者」とか「格別多くの富や栄光、幸運を授ける者」という意味になり、その名称は「多聞天」ではなく「多富天」とか「多財天」「多祥天」が適当であろう。

５．まとめ

三橋健著平成14年『日本人の福の神　七福神と幸福論』丸善㈱（P115,116）に次のような記述がある。

――仏教では、この天王は常に釈迦の側に伺候して、仏法を護り、数多くの説法を聞いたので多聞と呼ぶようになったのが一般的である。

たとえば、聖徳太子（574～622）撰と伝える『法華経』の注釈書『法華義疏』には、毘沙門を多聞・普聞などと漢訳したことを説明して、この天王の福徳が普く知れ聞こえていることから普聞といい、さらに、『恒に如来の道場を護りて、法を聞く故に、多聞と名づく』と述べている。すなわち常に如来の道場を護り、説法をよく聞いたので多聞と名付けたというのである――

しかし、聖徳太子がサンスクリット語を理解されていたとは思えず「ヴァイシュラヴァナ」をどのような根拠をもとにして、この注釈をされたのか。『法華経』に記述があったか、または他の書物を参考にされたからであろうか。

「毘沙門天」と「多聞天」は、ガンダーラの仏伝浮彫りから分かるように釈迦の説法を聴いたことは一度もなかったと思われるが、ある国のある時代に仏教の碩学が、「ヴァイシュラヴァナ」の訳を多聞・普聞と訳したのが、普遍的な知識として時代をこえて伝わっていったのではないだろうか。まして、例えば聖徳太子などのような社会的に権威のある人が、その考えを取り入れることにより、権威性が増し、誰も異を唱えることはしなくなったと考えてもよいのではないか、と思う。

結論として、専門的、社会的、学術的などに権威ある人が立てた考え（仮説）は、または、それが流布する過程において、そのような権威ある人が何らかの形で関与した場合は、実証・検証がなされることもないまま、定説的・普遍的な理論となって時代をこえて伝わっていくことに疑問を感じた。

「毘沙門天、別称多聞天説」が、その一例ではないだろうか。

けやき遊歩クラブ

研究生　中村　米三郎

１．目標

シニアの宝物、それは健康、健康は歩くことから…を実現するための活動を行います。

２．活動方針

太陽、風、雲、花、緑、山、川、文化遺産などを友に「遊び心」をもって学びながら楽しく歩き、その活動を通して会員同士の親睦を図り、シニアの活性化に寄与します。

３．遊歩クラブバッチ

例会活動中は、原則として着用して頂きます。

４．会員の状況

会員は４月 28 日現在、110 名の方が入会されています。

５．29 年度の活動状況

月	参加者数	活動内容
5	36	薬師寺、唐招提寺 他
6	40	京都御所、仙洞御所 他
7	26	石山寺、三井寺 他
8	27	バーベーキュ有馬富士
9	34	明日香を歩く
10	44	学園バスで関ケ原へ
	けやき祭に参加	
11	23	貴船神社、鞍馬寺
12	62	朝日新聞社、忘年会
1	38	橿原神宮、今井町 他
2	33	学園バスで志摩へ
3	28	梅宮大社、鈴虫寺 他
4	25	姫路城で花見

けやきＩＴを楽しむ会

研究生　中村　米三郎

次のようなコースを設けて、皆さんと一緒にＩＴを楽しみたいと考えています。

会員は４月 28 日現在、26 名の方が入会されています。

１．定例講習会

(1) ＶＢＡコース（入門コース）

前期は、必要性が高いと考えているパソコン概論として、パソコンの必要な機能・便利な機能と 2020 年から小学生もプログラムが必修になるので Scratch 言語を使って「プログラムとは何か」を理解します。後期は、ＶＢＡの基本を勉強します。

(2) ＶＢＡコース（応用コース）

ＶＢＡを使ったプログラムの解き方、デバッグ方法を勉強します。

(3) スマホ・タブレット勉強会

これからますます多様化し発展していく「スマホ・タブレット」を少しでも効率的に使えるように、勉強会形式で行います。

(4) Python 研究会

かなり普及している Python を勉強して、秋のけやき祭で使うゲームの開発に挑戦します。

２．臨時講習会の開催

７月（前期の終わりごろ）、社会連携推進センター生涯学習ユニットの承認を得て、シニア専修コース受講生を対象にしたパソコン概論の講習会の開催を考えています。

３．10 月のけやき祭に参加をする予定です。

けやきテニス同好会

研究生　眞鍋　幸裕

シニア専修コースでは唯一のスポーツクラブであり、今年度も新入生３名が加わり、現在メンバーは 17 名（男子９名、女子８名）です。

人生は 100 年時代、今が人生で一番若い時です。テニスをして健康年齢を維持しましょう。

練習は毎週木曜日 12 時 30 分から 14 時 30 分まで、コートは園田学園のオムニコートとクレーコート各１面を使わせて頂いています。

オムニコートは排水性が良い砂入人工芝の、またクレーコートは土のコートで、ともに足に優しいコートです。

オムニコートでは試合を行い、クレーコートでは練習を行っています。

練習はシニアらしく決して激しくはありません。テニスを楽しみながら、体力を維持し、メンバーとともに学園生活をエンジョイすることを目的としています。

毎回練習後は、開花亭（学食）またはカウボーイで反省会を兼ねた懇親会を行っています。

皆様！！　テニスで良い汗をかき、青春の気分になりませんか。参加をお待ちしています。入会を希望される方は、テニスができる格好で練習日にオムニコートにお越しください。

園田学園は伊達公子さんやオリンピック選手を出したテニス界の名門校であり、このような名門校のコートでテニスが出来るのは幸せです。

代表：中村 米三郎（研究生）

こんな世界もあったのだ！

－　けやきカラオケクラブ　－

研究生　木下　俊造

設立から５年目を迎える「けやきカラオケクラブ」は、当初よりおしゃべり自由、出はいり自由、出欠自由とお荷物ゼロをモットーに活動中です。

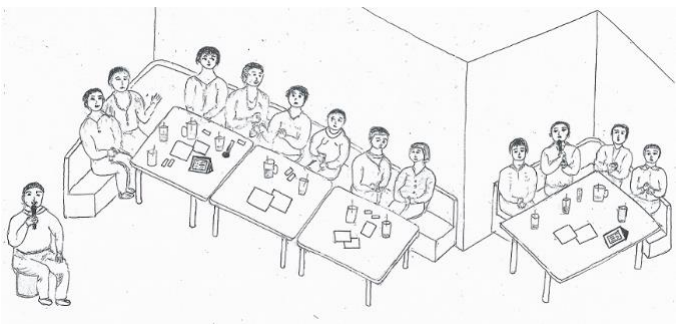
今年もできるだけ多くの皆様に参加していただけるよう、４月から２ヶ月に３回程度のペースで、月・水・金曜日に例会を行っており、例会には大学の近くに 15 名から 20 名入れる部屋を確保しています。都合により二つの部屋になる場合もありますが、各部屋で異なる雰囲気を楽しんでいただけるでしょうし、８月には恒例の新入部員歓迎会も予定しています。

昨年は新企画として皆様よりのリクエストをお願いしたところ、25 曲のリクエストをいただき、その内 22 曲もの歌唱があったのには驚かされましたが、今年は例年より多くの新入部員を迎え、「次の時代も聴きたい名曲 100 選」へ挑戦しています。過去の歌唱 60 曲に併せ、第３回と第４回の例会で、名曲 100 選も残り 10 曲にせまってきましたので、少しの時間でも参加していただければありがたいです。

これからも、道具や手間をかけず、家計に優しい料金で楽しんでいただける例会を、お気軽にのぞいていただければ、こんな世界もあったのだ！　と思っていただけるはずです。

部員一同皆様方のお越しをお待ちしています！

けやきカラオケクラブ例会イメージ



けやきコーラス部

研究生　橋本　秀明

新入生交流会でも紹介しましたが、現在コーラス部は活動を停止しています。部員減少に伴う措置です。部員数は５名、すべて研究生です。部員が増えれば、後期から再開を考えています。

歌唱指導は、当大学の短期大学元教授と外部から来て頂いているプロのピアノの先生お二人でしたが、ピアノの先生だけにしようかとも思っております。

レッスンは、

・月３～４回
・金曜日の４時限の時間帯(14:40-16:10)
・部費　2500 円、下げることを検討中

ユニゾン・混成二部・三部合唱で、童謡・唱歌・歌曲・歌謡曲・洋楽など様々な歌をうたいます。

文学歴史学科の方から３名ほどセンターに問い合わせがありました。中には部費が高いとおっしゃる方がいたようですが、１レッスン幾らかかるかを計算してもらえば決して高いものではありません。当大学の公開講座「楽しいコーラス」は１レッスン 2000 円、世間相場です。

入部希望の方は、センターのコーラス部の引き出しに申し込み用紙を用意しますので記入して引き出しに入れておいてください。

公開講座「楽しいコーラス」の先生は、「声を出すことは、精神的にとてもよいことです。お腹から精一杯声を出すことは健康にもつながります。うたう楽しさはいうまでもないですが、皆でうたえば、もっと楽しいものです」と言っておられます。

譜面が読めなくとも歌はうたえます。多くのかたにコーラスの楽しさを知ってもらいたいものです。

「けやき便り」編集クラブ

文学歴史学科１年　櫻井　秀也

新入生の皆さま、そして全てのシニア専修コースの学生の皆さま、「けやき便り」を手に取ってご覧いただけておりますでしょうか？

「けやき便り」は平成22年の10月に創刊し、今回で 18 号を数えることになりました。

クラスや同窓会、学内行事、クラブ活動の様子、皆さまの趣味のご披露、そして皆さまが日ごろ感じ、考えておられることなどについて、自由に投稿していただく小さな情報誌です。

こんなこと、と思わずに、作文、写真、川柳、旅行記、徒然なるままに感じられたことをどんどんお寄せください。「けやき便り」が皆さんにとって、学園生活を楽しみ、交流の輪を広げる一助になれたらと願っております。

編集クラブは、企画、原稿募集、編集・校正、印刷、製本といった作業を全員（現在 16 名）で行っています。毎月ほぼ１回開催される編集会議では、堅苦しさゼロ、時には冗談も交り、元気の良い意見が飛びかい、終わると「たこ焼き屋」へ直行して乾杯！春と秋の年２回の発刊日の後は、打ち上げで、大カンパーイ！

お話したい方、たこ焼きが好きな方、どなたでも、ぜひ一度編集クラブを覗いてください。

◁ 編集会議の様子

打ち上げだー ▷

社会連携推進センター

生涯学習ユニットからのお知らせ

社会貢献と地域連携活動の充実と共同研究支援のため、2018 年４月、総合生涯学習センターと地域連携推進機構が融合し、**「社会連携推進センター」**が発足しました。

この新しいセンターには、私ども担当の公開講座、シニア専修コース等の生涯学習事業を行う**「生涯学習ユニット」**と並び、本学の教育、研究を地域社会へ公開し、地域連携や産学官連携など本学の地域貢献活動を総合的に推進することを目的に掲げ、地域に根ざした大学として地元、尼崎を中心とした地域連携・交流事業を行う**「地域連携・研究支援ユニット」**が配置されています。

皆様方には今回の移動でご不便、ご迷惑をおかけし、まことに申し訳ありません。

今年度からは**「社会連携推進センター　生涯学習ユニット」**として、引き続きよろしくお願い申し上げます。

2018 年度の**「生涯学習ユニット」**スタッフは次の通りです。

所長・松葉　真（まつば　まこと）
*大学人間健康学部食物栄養学科准教授
課長・大野　明子（おおの　めいこ）
増田　奈美（ますだ　なみ）
與山　里香（よやま　りか）
南部　真紀（なんぶ　まき）

1　シニア専修コース会議

日時：６月１３日（水）１４：４０～１６：００
場所：２３１教室
✤シニア専修コース受講生のより一層の学園生活の活性化を図り、充実した活動を支援することを目的に、各学科学年から選出されたクラス代表、各クラブ・同好会代表の皆様はご出席ください。

2　学園祭「けやき祭」に参加しませんか

♬♪今年も私たちと一緒に参加しましょう！♪

開催日：１０月２０日（土）、２１日（日）

*昨年度参加の記録画像　↓

3　公開講座「人間を考える」講師募集

シニア専修コース受講生に講座講師をご担当いただく取り組みは、今回で５回目になります。
自薦他薦問いません。センターまで！

公開講座「人間を考える」
テーマ：夢の諸相
講座日：１１月１７日（土）２時限目
担当時間数：３０～４０分

☺　**いつでもお気軽に！**　♬♪♬♪♬♪

社会連携推進センターまでお越しください　☺

読者の広場

園田学園にこんな物が有るのを知ってますか

研究生　伊藤　幸子

私が１年の時に目にした「なにこれ？」「いいね！！」を紹介します。

１．教室から石垣が見える？

そこは２号館の地下です。

２．帆船がある！

開花亭２階の東側にあります。気になる方は一度見に行ってください。

帆船「ペサウ号物語」

３．赤いブラシがなる木？

その名の通りブラシの木で開花亭の東側に５月中旬頃赤いブラシに似た花がたくさん咲きます。

４．せせらぎが聞こえる！！

正門をまっすぐに行くと突き当りの小さな公園に小川が流れ、素敵な緑の散歩道があります。

皆さんも一度のんびりと周りを見渡して歩いてみてはいかがでしょうか。いろいろ面白いものに出会えるかもしれませんよ。

編集後記

研究生になって、２年目を迎えようとしています。少し時間の余裕が持てるようになり、何か苦手なことに挑戦してみようと思い、前編集長の樽井さんに「何も分かりませんが、編集クラブに入れますか？」と聞きました。すると彼は「そんなん気にせんでも楽しんでその場に居たらええんや！」と言われ、その言葉だけで入部させていただきました。1 年目の私は周囲の皆さんの話に耳を傾けるのが精一杯です。特に校正の作業などをしている時は「正しい言葉の使い方」など色々勉強になることばかりです。

入部するまでは何気なく読んでいた「けやき便り」が編集部員の努力の成果だったことに感動すると共に、その一員になれたことに感謝しています。　（今西　伸子）

シニア専修コースに２回目の入学を行いました。情報学科を卒業し、新たに文学歴史学科で学びます。同じく国際文化学科を卒業し文学歴史学科に入学された新入生３名がおられ、いつまでも学びの心を持つ同志です。

夏めく５月新入生 63 名を迎え、学科・クラブの歓迎会や懇親会が盛大に行われ交流が深まっていると思います。18 号は、新入生の皆さまの声などを中心として新学期らしい特集となっています。

また自由投稿では３名の方に興味深い話を投稿して頂き深謝です。読者の皆さん、19 号への自由投稿をお願いします。投稿で読者の「輪」を広げたく思います。　（藤原　多計治）

◎「けやき便り」編集クラブでは皆さまからの自由投稿をお待ちしております。

＜連絡先＞

文学歴史学科１年　櫻井　秀也
携帯：090-6904-9738
E メール：hideyasakurai94@gmail.com